

# 学校法人総持学園

鶴見大学・鶴見大学短期大学部／神奈川県横浜市

本学園は、母体である曹洞宗大本山總持寺の境内に隣接した緑豊かな環境の中、大学、短期大学部、附属中学校、高等学校及び三松幼稚園を擁する総合学園で、2024年には、創立100周年を迎えます。

「大覚円成 報恩行持」を建学の精神に掲げ、禅の教えに基づいて、将来を担える人材を育成しています。

本事業では、補充的避難場所でもある体育館に停電型GHPを導入しました。

空調設備設置により、災害時の安全強化だけでなく、重要課題であった授業や課外活動における学生等の熱中症も改善され、教育環境についても整備でき、安全・安心に活用できるものとなりました。



外観

## 補助事業の概要

- 導入設備：停電対応型GHP 56kW×6台
- 補助金額：25,926千円(補助率1/3)
- 災害時の設備用途：[発電] 2F第一競技場(コンセント利用)  
[空調] 2F第一競技場

対象施設	避難所面積	供給方式
避難所	1,952㎡	低圧

## 事業者様の声

### 補助金を用いた設備導入の経緯と効果

学校法人総持学園 財務部 管財課 長崎 明 様

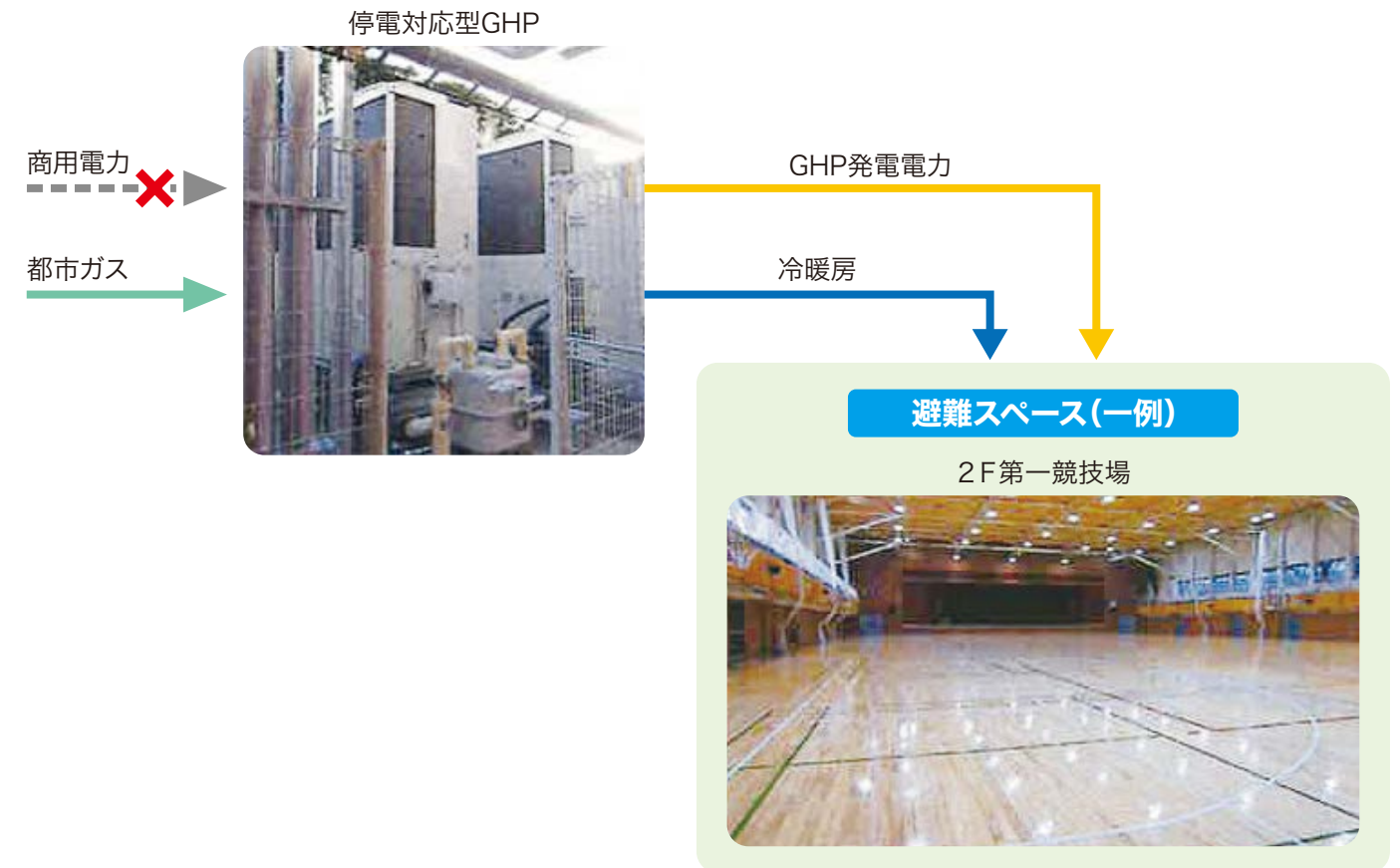
本学では、体育館で行われる授業等における熱中症対策が重要課題とされ、学生の教育環境を整える上でも空調設備の導入が必要不可欠ではないかと検討しておりましたところ、ガス会社より補助金を活用した空調設備設置のご提案をいただきました。

体育館については、災害時における補充的避難場所として平成26年に横浜市と協定を結んでおり、避難場所としての設備の強靱化も図れることから、停電対応型GHPの導入を決めました。

空調設備を整備したことにより、教育環境が改善されたことはもちろんのこと、災害時の空調機の使用だけでなく、停電時でも照明やコンセントの使用が可能となることから、避難される方々の不安感や健康への影響を最小限に抑えることができるのではないかと考えております。また、補助金を活用することでコストダウンにもつながりました。

## 災害時にも貢献する施設の役割とエネルギーシステム

### 停電時の設備活用イメージ



## 災害時にも避難所等で活用可能な設備等



空調



コンセント

## 協定概要

横浜市とは「大規模地震等の災害時における避難施設の提供協力に関する協定」を締結(平成26年3月)。大規模地震等の災害時において、補充的避難場所として一時的に施設を提供し、避難場所として使用することを定めています。今回補助金を活用して設備を導入した体育館第一競技場では、災害時でも空調等が継続利用できる計画となっています。